

世界選手権95kg級2連覇の実績を誇る須貝等プロデュースの柔道着ブランドNICE GUYが始動!



NICE GUY 須貝等 × 永瀬 義規

スペシャル対談 (1985・87年 世界選手権 95kg級 優勝) (株式会社ジャパンスポーツコミッション代表取締役)

かつて日本人の活躍が困難と言われた 95 kg級で世界選手権 2 連覇を果たした須貝等が監修する柔道着の新ブランド「NICE GUY」が今季本格スタート。親子で戦う柔道大会として人気を誇る「ひのまるキッズ」を運営する永瀬義規氏とともに、2 人の歴史から今もともに柔道に携わる思いを語ってもらった。



—まずお二人の間柄について教えてください。

永瀬 年齢は一緒なんですけど僕は1年浪人して大学へ入っていて、現役時代は全然雲の上の人でした。須貝さんは元インターハイチャンピオンだったし、僕が大学に入った時にはもう日本トップクラスで、僕は中央大学で4年生の時にやっとレギュラーになれたくらいです。学生時代に交流はなかったので、関係ができたのは大学を出てから。僕が「近代柔道」という雑誌の担当になった時に須貝さんも世界チャンピオンになって、その頃からこういう付き合いになっていきました。

須貝 新聞記者とか他のマスコミの人とはちょっと違ってましたね。柔道家として話すというのがあったので、話しやすかったですし、特に取材を受けるという感覚はありませんでした。内容的にも詳しいですし、柔道を知らない記者の人に聞かれるより何でも喋ってしまうようなところがありました。

永瀬 よく声を掛けてもらったし、ソウル五輪が終わって須貝さんの引退特集もしました。その後ワンクッションあって92年に同じ会社へ入るんです。そこで須貝さんは柔道部を作って日本一の部にする、僕はアメリカへ行ってマーケティングなんかを勉強したいという希望を持っていました。同じ会社に入ったのでどんどん仲が濃くなっていったんです。

須貝 その後で会社は無くなってしまおうのですが、個人的な付き合いはなくなりませんでした。知り合ったのは柔道を通じてですけど、プライベートでの付き合いの方が多かったし、それから今まで、ずっと彼の付き合いは変わりません。

永瀬 両方とも異端児だと思うんです。須貝さんは大学時代に選手生命を左



右のような怪我をしながらそれを克服して、95 kg級という日本は絶対メダルを獲れないと言われていた階級で世界選手権を2連覇したすごい努力家です。かといって柔道にぶら下がっている人ではなく、安定した企業に入ったと思ったらまた急に違う会社へ入ったり。一方僕は、一般生で中央大学に入ってレギュラーになれたのは自分しかいなかったし、就職してからも2年で編集長になりました。そうやって異端児同士であったかもしれないんですが、僕は生意気で嫌われるのに、須貝さんは嫌われることがありません(苦笑)。

—お二人のいろいろなエピソードが出ましたが、日本人の活躍が困難と言われていた95 kg級で須貝さんが活躍できたのはどうしてだったのでしょうか。

永瀬 やっぱり俺が強かったから?(笑)

須貝 いやいや、何で強くなれたかっていうのは実際自分では分かりません。そうなりたいて思う気持ちの人が強かっただけじゃないですか。世界一になるってことが夢というより目標だったので、それまで諦めなかったってことじゃないですかね。夢だったら夢で終わってしまう気もするし、目標というより「なるもんだ」と思ってやっていました。先生方にも「お前ならなれる」と言われていたので、おだてられてその気になってしまったんじゃないかと思えます。

永瀬 大学時代に怪我があって須貝さんは学生チャンピオンにはなっていないんですけど、そこで挫折を経験してさらに強くなったんじゃないかと思えます。

—怪我はどういう怪我だったのですか?

須貝 半月板の損傷で、手術をして1ヵ月入院していました。当時は「もう柔道できない」と言われて、1年間稽古をしませんでした。同じ階級に強い奴らがいて、彼らが優勝したりするのを見て悔しかったし焦りはあったんですけど、先生が稽古をさせてくれなかったんです。だから1年間は女子としかやっていません。膝なので将来のことを考えて、先生が止めていました。普通はもっと焦ると思うんですけど、のん気な性格だから「やらなくていい」と言われてラッキーなんて思うところがありました(笑)。

—それぐらいの心持でないと、怪我やそれに伴うフラストレーションとは上手く付き合えないのかもしれないですね。

須貝 やっぱり怪我をしているうちは休むことじゃないですかね。でも完全に休むのではなく、柔道に関係のないことで体を動かすのは必要だと思います。私は膝が悪いから、よくプールで歩いていました。

—頂点を極め、柔道のあらゆることを経験してきた須貝さんがプロデュースする道着、「NICE GUY」について教えてください。

須貝 僕は指導者ではないですけど柔道に携わった仕事をしたいと思って、じゃあ道着を作ってみようと思ってやってみたのがきっかけです。こだわりは価格と品質。低価格であることで子どもも入りやすいですし、1枚しか持っていない人も2枚3枚と買えるようになる。最初のきっかけは安いところから入っても構わないと思ったんです。僕は一番の夢だったオリンピックでは勝てなかったというのがあるので、願わくばこれを着た選手が優勝している姿を死ぬまでに1回ぐらいは見てみたい。自分が選手としてその夢を叶えるのは無理なので、柔道着の方でそれが叶ったら最高でしょうね。

永瀬 元世界チャンピオンで365日・24時間柔道のことを考えてるような人が作った道着ですから、いいに決まってるじゃないですか(笑)。柔道着という勝つための道具を、世界チャンピオンに2回もなった人が真剣に考えている。こんなにいいことはないと思います。

—永瀬さんが心を注ぎ開催している、ひのまるキッズ柔道大会についても教えてください。

永瀬 須貝先輩のように、競技の三角形の頂点でずっとやってきた人もいる訳ですが、僕は子どもたちをサポートしたり、そもそも自分がいた底辺の柔道を手掛けたかった。それをやる会社を作ろうと思って始めたのが今の会社なんです。ひのまるキッズはどういう大会かというと、通常は道場の先生が子どもたちを連れて大会へ行くんです。親は大会へ行くと2階で見ていることになる。でも、うちの大会は道場の先生がいいと言えば、親が直接申し込んで、責任を持って子どもを会場へ連れてくる。親が試合場のサイドに座って、セコンドみたいな立場になるんです。

—HPを拝見したら、親と一緒に選手宣誓をしたりもするそうですね。

永瀬 親を試合場に降ろすということ自体が全く違うんです。大会で1回

戦で負ける子が半分出る訳ですが、そういう子どもたちが一流選手の指導を受けたり、打ち込みコンテストに参加できたりする。そこに須貝先輩はいつも来てくれているんです。会場内にも疲れたお父さんにマッサージコーナーがあったり、いろんなブースがいっぱいある。子どもがたくさん集まるスポーツイベントは他にもありますが、同数の親も来る大会というのは他にはないと思います。2009年の春に立ち上げて最初は関東・東海・九州の3地区、2010年からは全国8大会にしてやっていっています。

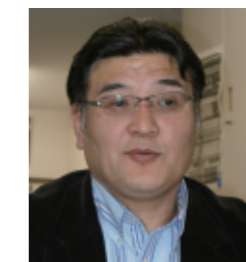
須貝 親子の絆というものを大事にしている、そのコンセプトは間違っていないと思います。これまでの柔道というのは大先生がいて教えるがいて、その間に親が入ることはできなかった。でも師弟関係と同じで親子の絆も大事なんです。親も柔道という格闘技をやっている、やっぱり怪我もあるし心配をします。それで何をやっているのか分からないというのではなく、負けた悔しさや勝って喜ぶ、そういう子どもの姿を直に見るいいチャンスでもあるんです。子どもが勝つと親と一緒に表彰される大会なのですが、子どもが表彰されることで自分も感動している親の姿を見ると、やっぱり間違っていないんだなと思います。

永瀬 ひのまるキッズは震災後、2011年6月12日に公式の大会をいち早く開催しました。その時に被災地の子どもたちを呼んだのですが、選手宣誓をやった兄弟2人がすごく立派で感動的な挨拶をしてくれました。それが僕たちの原点になっていて、だからうちの大会はやる限りは未来永劫復興支援です。

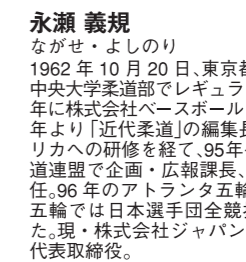
—それぞれ今後のひのまるキッズについて、最後に一言ずつお願いします。

須貝 いいコンセプトだと思うし、永瀬とは柔道がきっかけでしたが、その後は男気を感じて付き合っています。全国を回るので大変なスケジュールになるし文句は言いますが(苦笑)、いつも大会を最優先で考えています。

永瀬 面白いですよ、世界チャンピオンなのに子どもたちからは道着屋のおじさんだと思われていたりして(笑)。僕自身はいい大会になったし、今後も自分のやるべきことだと思っています。ひのまるキッズは子どもたちにもいいものを提供して、感動したり正しいことをさせる、そういう大会としてこれからも続けていきたいと思っています。



須貝 等
すがい・ひとし
1962年12月29日、北海道古平町出身
中学時代に柔道を始め、高校時代に個人戦や団体戦で全国優勝を経験。東海大学進学後は膝の怪我に悩まされるも克服し、社会人となった後85年と87年の世界選手権で優勝し、2連覇を達成する。89年のソウル五輪ではメダル獲得ならず。90年に現役を引退し、現在は武道ギア株式会社の代表取締役として就任している。



永瀬 義規
ながせ・よしのり
1962年10月20日、東京都小平市出身
中央大学柔道部でレギュラーとして活躍した後、86年に株式会社ベースボール・マガジン社へ入社。88年より「近代柔道」の編集長を務める。その後アメリカへの研修を経て、95年~2000年まで全日本柔道連盟で企画・広報課長、大会事業課長などを歴任。96年のアトランタ五輪と2000年のシドニー五輪では日本選手団全競技の広報責任者を務めた。現・株式会社ジャパンスポーツコミッション代表取締役。

2013年大会スケジュール

2013年7月28日 第4回 東北小学生大会	2013年9月15日 第5回 東海小学生大会	2013年9月29日 第4回 四国小学生大会
2013年10月20日 第4回 北信越小学生大会	2013年12月8日 第4回 中国小学生大会	